

感性や創造力を働かせ、自分なりの意味や価値をつくりだす授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ① 各学年段階における指導事項や内容の取扱いと、指導上の配慮事項を踏まえて指導計画を作成するとともに、表現及び鑑賞の能力を発揮している具体的な児童生徒の姿を想定する。
- ② 児童生徒自らが生み出した表したいことや主題を基に発想や構想を練ることができるように、主体的に表現を試したり、考えを交流したりすることで、多様な表現に触れることができる学習環境を整える。
- ③ 題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、評価の場を精選し、児童生徒の学習状況を作品や対話、ワークシート等から適切に見取り、児童生徒の学習の改善や教師の指導改善に生かす。
- ④ 造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させられるように、造形的な視点で捉える時間や場を充実させ、児童生徒の見方や感じ方等の価値付けを図る。

生徒の学習状況を把握し、指導と評価に生かす学習の例


中学校第3学年 題材名「情報を伝えるデザイン～□□に一目で伝えるピクトグラム～」

◇題材の目標（一部）

- (1) 意図に応じて自分の表現方法を追求し、制作の順序などを総合的に考えながら見通しをもって創造的に表す。【技能「A表現」(2)ア(イ)(イ)】
- (2) 伝える相手や場所などのイメージから主題を生み出し、形や色彩などが感情にもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練る。【思考力・判断力・表現力等「A表現」(1)イ(イ)】

第2学年及び第3学年では、第1学年で身に付けた資質・能力を柔軟に活用したり、発展させたりします。目標や指導事項に示された各学年の違い（下線部）等を確認して題材計画を立てるようにします。①

○は評価規準 [] は評価方法

時間	主な学習活動	学習状況の把握と指導・評価
1	<p>1 鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なピクトグラムを鑑賞し、伝達のデザインの意図や表現の工夫等について感じたことや考えたことを述べ合う。 	<p><主題を生み出す場面></p> <p>○伝える相手や場所などのイメージから主題を生み出している。 【思考・判断・表現】 [アイデアスケッチ、ワークシート]</p> <p>T : S1さんは「食堂」のピクトグラムをアイデアスケッチしているのですね。どんな主題を基に考えていますか。</p> <p>S1: 鑑賞のときに学んだように、分かりやすさが大事だと考えています。だから、形を単純にしてはっきりした色を使いたいです。</p> <p>T : 食器の形を単純化していて分かりやすいですね。それに加えて、施設を利用する人や場所をイメージしてみるとどうでしょう。</p> <p>S1: お年寄りの方々が生活する場所だと考えると、もっと年齢に合ったモチーフや雰囲気にした方が、より分かりやすいように思えてきました。</p> <p>T : 表したいことがまとまってきましたね。ワークシートに書いておきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(S1のワークシート)</p> <p>主題 お年寄りが安心して生活できるように、分かりやすさとやさしい雰囲気を表したい。</p> </div> <p>【指導に生かす評価】 もっと場所や相手を意識させる手立が必要だった。生徒がこの視点にいつでも着目できるように、黒板に掲示しておこう。</p>
2 3 4	<p>2 発想や構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉施設等に設置するピクトグラムを想定し、主題を生み出す。 ・主題を基に構想を練る。 	<p><発想や構想を基に表す場面></p> <p>○意図に応じて自分の表現方法を追求し、制作の順序などを総合的に考えながら見通しをもって創造的に表している。 【技能】 [制作途中の作品、活動の様子]</p> <p>T : S2さんは、前の時間に何種類もの色を使って、着色を試していましたね。この色に決めたのはなぜですか。</p> <p>S2: 様々な色を試してみましたが、私の主題の「利用者が楽しい気持ちになるピクトグラム」を表すためには、彩やかで明るい色が適していると思ったからです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【記録に残す評価】 (制作途中の評価)</p> <p>表現の意図に応じて、色彩が感情にもたらす効果を意識しながら試行錯誤を重ね、よりよく表しているので「十分に満足できる」状況としよう。</p> </div>
5 6	<p>3 制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想や構想を基に、意図に応じて表現方法を創意工夫し、見通しをもって表す。 	<p>伝える相手や場所のイメージから主題を生み出せていない生徒を見取り、つまりきに応じて使用する相手や場所について確認するなどの手立てを講じます。また、教師の手立てを振り返り、指導改善を図ります。③</p> <p>ワークシート等に言葉や文章で主題を可視化させたり、対話を通して表したいことを捉えたりするなどして、生徒が意図に沿った表現をしようとしているかを教師が把握し、指導に生かすことができます。③</p>
7	<p>4 鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの作品を鑑賞し、伝達のデザインについての見方や感じ方を深める。 	<p>生徒が意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるように、「試したい」と思ったときに、材料や用具と関わるような学習環境を整えます。②</p> <p>技能は、制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって表れてくるため、制作途中を中心としつつ、完成作品からも再度評価し、技能の高まりを見取るようにします。③</p>